

インドネシア厚生省幹部、国立大学学長来県



12月14日、インドネシア共和国の厚生省医療人材分野責任者のオース局長はじめ、厚生省幹部の方々と国立看護大学学長の計6名が三重県にお越しいただき、知事と正副議長に面会しました。

インドネシアには国立看護大学が38校あり、毎年約8千人が卒業します（国全体では5万人が看護大学を卒業）。この人材が、日本の看護師や介護福祉士の国家資格を取るプロジェクトを国として考えており、その協力依頼にみえました。

日本とインドネシアの経済連携協定（EPA）によって、昨年までに来日した714人の内、158人が看護師国家資格に合格していますが、一番大きいのは言葉の壁です。今回の知事との

面会で、国立看護大学への日本語科目導入にあたっての協力依頼、日本の看護、介護プログラムのベンチマーキング、本県の看護大学との連携などの協力依頼がなされました。

知事からは、現在三重県にはインドネシアから、技能実習69人、特定技能85人が来ていただけていますが、特に介護の現場の人材不足が深刻であることから、今後更にインドネシアとの介護、看護の人材交流を深めたいとの話がありました。

この会談をスタートに、インドネシア共和国と三重県の、看護、介護分野の人材育成、人材交流が更に広がるよう取組みを行います。

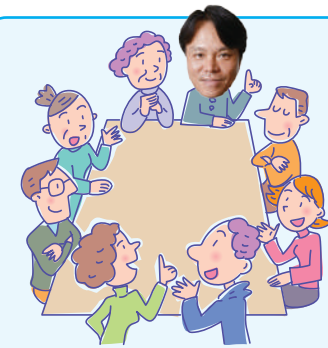


8月29日～9月2日
インドネシア訪問

松阪フルマラソン完走（4時間19分14秒）

12月17日松阪フルマラソンに出場しました。令和4年に初フルマラソンで挑戦しましたが、30キロ過ぎから体が限界で、4時間50分27秒で何とか完走出来たものの不本意な結果でした。今回はリベンジを誓い、9月以降、毎月100キロ以上の走り込みを行い、本番を迎えることが出来ました。結果は4時間19分14秒で30分以上自己ベストを更新することが出来ました。50歳から始めたフルマラソンですが、毎年記録の更新を狙い、若返って行きたいと思えます。

昨年は、福井県大野市、滋賀県長浜市のハーフマラソン、四日市のリレーマラソン、松阪フルマラソンを走り抜くことが出来ました。「STAY GOLDランニングチーム」も結成しましたので皆さん一緒に走りませんか？



ミニ座談会・気軽にお声掛け下さい

ミニ座談会を行っています。皆さんと意見交換を致したく、気軽にお声掛けください。希望日時、場所を事務所までご連絡いただければ駆けつけます。よろしくお願いします。

また毎月29日を「ふくの日」として、私の事務所にて「ふくの会」を開催しています。定員15名ですが、どなたでもご参加いただけますので、詳細興味があります方は事務所まで連絡をお願いします。

いながき昭義プロフィール

- 昭和47年 四日市市東坂部町生まれ 大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業
- 平成7年～10年 株式会社三重銀行勤務（現三十三銀行）
- 平成11年 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点
学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
- 平成15年 三重県議会議員選挙30歳で最年少当選 以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長、予算決算常任委員会委員長等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり、議員提案条例を制定してきた。
- 平成28年11月 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテク医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
- 平成31年4月 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任
- 令和2年3月 明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 令和2年11月 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格
- 令和3年5月 三重県議会第115代副議長就任
- 令和5年4月 三重県議会議員選挙 6期目当選 新政みえ代表就任



趣味：マラソン（令和4年、5年12月松阪フルマラソン完走）、登山、読書、
ワイン（定期的にワイン会開催中）
好きな食べ物：餃子、麺類
尊敬する人物：坂本龍馬
家族：妻、息子（高2）、娘（中1）、両親

◆個人献金のお願い◆

いながき昭義の政治活動は皆様の個人献金によって支えられています。勝手なお願いで恐縮ですが、ご支援賜りますようお願い申し上げます。尚個人献金は、寄付金控除の対象となります。
三十三銀行本店 1804244 いながき昭義政経情報交換会
百五銀行生業支店 397102 いながき昭義政経情報交換会

Dream21 vol.58

昨年はお世話になりました。
本年もよろしくお願いいたします。



新しい年を迎えることができ、皆様と共に祝い申し上げます。昨年は4月に県議会議員選挙があり、皆様のご支援のおかげで6期目の当選を果たすことができ、会派の仲間のご推挙で、5月から最大派新政みえの代表を再び務めることとなりました。私にとって全力で駆け抜けた一年となりました。健康で、一年間思う存分活動することができ、感謝申し上げます。

今年は、新型コロナ禍も終わり、この4年で相当傷んだ子ども達への丁寧な対応を行うと共に、知事が力を入れる観光など攻めの政策を前に進めて行く年になります。特に、県産品の海外展開や、海外との介護や医療分野の人材交流、海外からの誘客促進などに議会としても積極的に取組みたいと思えます。

本年が皆様に取りまして、飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます。皆様の変らぬご支援、ご指導を今年も賜りますようお願い申し上げます。

三重県議会議員 稲垣昭義

いながき昭義のSNSフォロー・YouTubeチャンネル登録をお願いします

◆いながき昭義公式ブログ「初心、継続。」
政策・活動報告などを発信



◆音声プラットフォームVoicy
不定期に朝6時から10分間、音声配信



◆いながき昭義公式X（旧Twitter）
私の考え、素朴な感じたことを毎日発信



◆いながき昭義YouTubeチャンネル
選挙や活動動画の履歴配信



◆いながき昭義公式Instagram
ワインエキスパートとして発信



◆いながき昭義ホームページ



第15回未来創造セミナー

いながき昭義 × 名古屋外国語大学 小野展克 教授

講演テーマ:『「スシロー」と「神戸屋」から考える日本企業の課題と可能性』

日本の経済が全く成長していないのはなぜかと感じ、様々な企業の経営を見るようになりました。今日はおもしろい企業の事例を2つ紹介します。

日本のTOPIX500社の中で、40%以上の会社がPBR（株価純資産倍率）1倍を割れていて、非常に株式市場から厳しい評価となつています。この理由は、日本企業は構造的な課題として、直接マーケットから資金を調達するより、銀行から調達する間接金融が中心になっていることです。企業の稼ぐ力が低下しており、コーポレートガバナンスが停滞していることが、日本企業の課題です。

一方、海外の企業は、Meta、OpenAI、Googleなどをみても経営者が若く多様化しています。OECDの調査では、女性の役員比率は平均30%ですが、フランスは約45%、日本は約15%です。役員の外国人比率は、フランス31%、英国33%、日本は3.3%です。日本の経営者の年齢は60歳～70歳が、約1万2千人に対して30歳未満はたったの3人です。企業の収益率と経営陣の多様性は相関関係があると言われていますが、日本企業は経営の多様性が無すぎるのが問題です。

「スシロー」のコーポレートガバナンス(企業統治)

「スシロー」は、1975年に寿司職人の清水義雄氏が創業し、大阪で1店舗からスタートしました。1984年に回転すしを始め爆発的にヒットしました。人気の秘訣は「お客さんにいただいたお金の半分はネタでお返しする」との理念で、外食産業の原価率は3割が常識の所、5割とし、千店舗近くになった現在もこれを維持しています。

「スシロー」は、グローバル展開をはかり、中国に進出も始めました。将来目標として、売上1兆円企業にする（現在約2500億円）とのことです。取締役は、社長を取り締まるものであるとの考えから水留社長以外の8人は全員が社外取締役となっています。専門的な知見を求めるアドバイザリーボードではなく、社長や経営計画をチェックするモニタリングボードが重要であり取締

【特別対談】

稲垣議員：売上1兆円を目指し海外展開をはかるスシローですが、アメリカの食文化であるハンバーガーのグローバル化に成功したマクドナルドのように、日本の食文化であるすしをスシローがグローバル化できるでしょうか？

小野展克：まずこのようなことを掲げたことがすごく夢があると思います。日本の食文化が注目されている中で、すしがマクドナルドのようにグローバル展開されることは可能だと考えます。中国ではかなり展開されてきていますが、日本のすしが欧米人に受け入れられることはうれしいですね。

稲垣議員：マクドナルドのようなテイクアウトもすしはできるので可能性はありますね。

小野展克：共同通信の記者時代、銀行などにくらべると外食産業は大きい記事になりやすく、あまり注目されていませんでした。更に回転すしは、外食産業の中でも見下されているように感じました。そこから立ち上がって世界を目指すと言うことが非常にワクワクします。

稲垣議員：コロナ禍の3年半を振り返ると、飲食店が徹底的にたたかれました。もしかすると業界の力が弱いからではないかとも考えます。ぜひ、スシローでもはま寿司でもいいのですが、回転すしがグローバル展開して、マクドナルドになってほしいですね。

またコーポレートガバナンスの話で、取締役とは社長を取り締まっているものであるため、すべて社外取締役とのことでしたが、実際、特に中小企業は親族や身内を役員にしているケースは多く、日本でこれをやるのは難しいのではないのでしょうか？

小野展克：ご指摘の通り、大企業でも、社外取締役を入れていますが、銀行などの取引先からであったり、役所からの天下りであったり、本当にコーポレートガバナンスが機能しているのかといったことも言われており、日本では大きな課題となっています。

役会議はその役割を担っています。

急成長の中で、最近はおとり広告や迷惑動画の影響など問題も出てきています。おとり広告の謝罪会見等が行われず、対応がまずかったとの指摘もあり売上が下がってきています。トップが説明責任を果たすことが重要であり、本当の意味でコーポレートガバナンスが効いているのが今試されています。「スシロー」が世界進出して1兆円企業に本当になれるのか注目していきたいと思つています。

「神戸屋」のコーポレートトランスフォーメーション(企業変革)

「神戸屋」が令和4年8月、袋パン事業をヤマザキパンに譲渡したことで業界に衝撃が走りました。売上の7割(300億円)を占め、黒字のメイン事業だった袋パン事業をなぜ売却したのでしょうか？

その理由は、①上流(製粉メーカー)と下流(スーパー)が儲かって、真ん中(パンメーカー)が儲からない事業であること。②業界としてピックスリー(ヤマザキパン、フジパン、敷島パン)に食い込むことは不可能であること。③中長期的にはシェア拡大は見込めず、利益率の低い事業であることです。

「神戸屋」は、1918年に創業した100年以上の歴史がある会社です。経営理念の「上質な食文化の提供」に立ち返り、米文化の日本にあって、パン文化に挑戦し西洋風の高級なパンや料理を提供してきた原点に戻り、袋パンの安売りのイメージから脱却を図るため変革を行いました。新戦略として、売上を目標にするのではなく、利益率を目標にすることとし、冷凍パン事業と直営店の強化を柱にすることとしました。このような大変革は、創業家である桐山社長だからできたのかもしれませんが。

今後柱となる、冷凍パンは、袋パンに比べて容量が縮小できるため輸送効率が上がり、食品ロスも無くなるといったメリットがあります。また直営レストランでは、高級なパンや料理を提供しブランド力を強化していきます。100年先を考えた判断と言われているこの変革の成果に注目していきたいと思つています。

稲垣議員：行政でも大事な視点で、政策を進めるのに、有識者会議や第三者委員会を立ち上げて意見を聞くといったことを最近をよくやっています。中小企業などはなかなか、社外取締役を置くのは難しいかもしれませんが、第三者の声を聞くと言った視点は大事ですね。

次に神戸屋についてですが、売上の7割を占めていた「袋パン事業」を売却するといった決断をされたと言いましたが、この決断にあたり、社員からの抵抗はなかったのでしょうか？

小野展克：相当ありました。先代の頃から利益率が悪く、業界トップ3に追いつくことは現実的ではない「袋パン事業」を手放す議論はありましたが、社員の抵抗が強く実現できていませんでした。しかし新型コロナ禍を経験し、会社がかかり厳しい状況に追い込まれる中、議論を重ね社内の猛反発を乗り越え理解が広がり実現しました。

今後、神戸屋は「上質な食文化の提供」という理念のもと、質の高いレストランやベーカリーの直営店事業を強化していくこととなります。

稲垣議員：ぜひ洋食レストランとワインの親和性は高いので、ワインも絡めた展開を期待したいですね。

小野展克：稲垣さんはワインエキスパートでしたね。四日市でワインを絡めた店舗の1号店をやるよう桐山社長に伝えておきます(笑)。

稲垣議員：ぜひよろしく申し上げます。私も何か関わらせて下さい(笑)。

スシローの水留社長は、プロ社長ですが、一方、神戸屋は100年の歴史があり、桐山社長は創業家であり、創業家でなければこのような大胆な改革は出来なかったと言われていることが非常に興味深いです。今後スシローのコーポレートガバナンスが上手く機能するのか？神戸屋のコーポレートトランスフォーメーションが成功するのか？注意深く見て行きたいと思つています。

新政みえ代表として代表質問に登場

◆「県民参加予算」と「討議デモクラシー」について

稲垣議員：

令和元年の代表質問で私は、これからの民主主義に重要なキーワードは、「参加型」と「当事者意識」であると申し上げました。そんな思いから、「県民参加予算」の提案をし、令和2年度から「みんつく予算」が導入されました。

県民から事業の提案をいただき、それらの事業に対して県民が投票を行い、事業の必要性等を議論し決定する仕組みです。鈴木知事から一見知事になり、なぜか「みんつく予算」という言葉は消え、「県民提案予算」となり、県民投票の仕組みが無くなりました。知事の「県民参加予算」「討議デモクラシー」についての考えをお聞かせ下さい。

一見勝之知事：

県民の参加型予算の取組をやっている自治体は少なく、東京都と、長野県、三重県ぐらいです。予算の使い道については共感とか納得性が重要です。県民投票については、予算を決めるにあたり、緊急性、広域性、整合性が重要で、県民の多数決で決めているのかとの考えもあり、令和3年度からは、県民投票という仕組みは設けずにやっております。しかし、今日、議員から御指摘も頂戴しましたので、来年度以降見直しを行います。

稲垣議員：

参加型の理念を大事にして、ぜひ来年度以降見直しして下さい。事業提案は、参加のハードルは高く、より多くの県民の参加してもらうには投票プロセスが重要です。また本来は県民の議論する場が必要です。東京都も5年前に住民参加予算がスタートし、都民提案と大学の研究者による提案という仕組みに進化しています。投票数は5年で10倍に増えています。県民参加を地道に進めていくことが重要と考えます。

⇒令和6年度当初予算編成に向けて県民の投票が復活しました。

◆「SDGs」から「STAY GOLD」へ

稲垣議員：

私はコロナ禍を経験し、感染対策と称して3年以上に渡って行ってきたことに、「人間としていかに生きるか」という視点が欠けていることに気づきました。政治の役割は、よりよい社会をつくることは大事ですが、そこには人の生活があることを忘れてはいけません。

「SDGs」の持続可能な社会という言葉に人の生活、人間らしく生きるといった視点が欠けてはいけなと考へ、4月の県議会議員選挙では、「SDGs」から「STAY GOLD」へ、持続可能な社会から誰もが輝き続けられる社会へと訴えてきました。私が目指す社会「STAY GOLD」誰もが輝き続けられる社会について知事の御所見をお伺いします。

一見勝之知事：

「STAY GOLD」について県庁内で議論しました。我々は生活していく上で人を人として認識し、それぞれを尊重することは当然であり、人間らしさは基本です。

誰一人取り残さない、この気持ちは行政にとって大事だと思います。また、誰もが自己肯定感を持って、輝く存在であり、自分が自分らしく生きていく、この2つとも大事な命題であると私は思っています。

県民が生き生きと暮らすことができるように取り組んでいくことを、「強じんな美し国ビジョンみえ」の中でも記載しました。気持ちは全く同じであると考えております。

◆子ども総合対策について

稲垣議員：

子どもを取り巻く環境は、相当厳しい現状があります。特に、3年以上にわたり、新型コロナ対策と称してあまりにも過剰な対応を子どもたちに求めてきたことや、人のためとか思いやりといった言葉で子どもたちの純粋な心を利用し、大人のために子どもたちを犠牲にしてきたことが非常に大きな要因であると私は考えます。

今年度は、「みえ子どもまるごと支援パッケージ」(41事業、予算100億円)を作りましたが、単年度のパッケージではなく、5か年計画あるいは10か年計画といった長期的な取組にす



いながき昭義 × 一見勝之知事

べきと考えます。

子どもをど真ん中に置いた県政展開を行うこと、長期的な子どもに関する総合対策を行うことについて、知事の御所見をお聞かせください。

一見勝之知事：

子どもは、三重県の未来を担っていく存在であります。それを三重県の大人が大事にしなくてどうするのかという気持ちで、「みえ子どもまるごと支援パッケージ」を作りました。

国も、子ども未来戦略方針が6月に出され、今秋をめどに、子ども施策に関する大綱(子ども大綱)が出されます。県は、これも参考にしながら、議員御指摘のとおり中長期的な子ども施策の展開を考えていきます。

これからアンケートを取り、その結果を踏まえて、中期の子どもの施策の計画「希望がかなうみえ子どもスマイルプラン」を改定して新しい計画を作ります。その後、県議会の政策討論会議での議論を踏まえて、迅速に「三重県子ども条例」の改正にも取り組んでいきます。

◆拠点滞在型観光として

「もう一つのお伊勢参り」の提案

稲垣議員：

伊勢西国三十三所観音巡礼を「もう一つのお伊勢参り」として、本県の観光政策の重要なコンテンツとして取り組んでどうかと提案します。簡単に説明すると、三十三観音は、伊勢市、鳥羽市、玉城町、松阪市、度会町、大台町、多気町、津市、鈴鹿市、亀山市、菟野町、四日市市、いなべ市、桑名市の14自治体にある39のお寺を指し、私の住む四日市市では、25番、勅願院観音寺、26番、垂坂山観音寺、27番、長興寺、28番、宝性寺の4つが含まれます。1200年前から伝わる観音巡礼であり、伊勢神宮参拝とともに伊勢の国のお寺を巡るもので、平安時代から行われ、「もう一つのお伊勢参り」として親しまれてきました。

伊勢西国三十三所観音巡礼の日本遺産登録を目指し、10年後の2033年、伊勢神宮の式年遷宮に向けて、この「もう一つのお伊勢参り」を本県の新たな観光資源として、全国に、世界に発信してはどうかと提案します。

一見勝之知事：

私ども考えております観光施策についての重要な御提案をいただきました。重く受け止めたいと思っております。観世音菩薩は非常にありがたい仏でありまして、馬頭観音、十一面観音、あるいは魚籃観音、不空罽索観音と姿を変えながら、我々衆生を救っていただきます。

伊勢西国三十三所観音巡礼の中には、創建をされたのが600年代のお寺もあるということで、実はこれ、恥ずかしながら知りませんでした。これから観光に取組むにあたり、そのテーマの一つとして、検討させていただきます。

【その他の質問項目】

◆新型コロナ禍から日常を取り戻すために

教職員が率先してマスクを外そう

警察官が率先してマスクを外そう

◆G7広島サミットを終えて

G7伊勢志摩サミットのレガシーとG7三重・伊勢志摩交通大臣会合に向けて